



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年11月7日

上場会社名 コタ株式会社 上場取引所 東証第一部  
 コード番号 4923 URL http://www.cota.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小田 博英  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 廣瀬 俊二 TEL (0774) 44-4923  
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	2,527	7.2	187	3.1	189	3.4	124	8.8
26年3月期第2四半期	2,357	5.6	182	△15.6	183	△14.9	114	△14.7

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	10.68	—
26年3月期第2四半期	9.82	—

(注) 当社は、平成26年4月1日付で普通株式1株につき1.1株の割合で株式分割を行っております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第2四半期	7,390	6,166	83.4
26年3月期	7,777	6,185	79.5

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 6,166百万円 26年3月期 6,185百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成26年4月1日付で普通株式1株につき1.1株の割合で株式分割を行っております。

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,441	9.6	1,097	20.0	1,096	22.6	706	32.3	60.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無
- (3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

27年3月期2Q	11,639,595株	26年3月期	11,639,595株
27年3月期2Q	7,413株	26年3月期	5,597株
27年3月期2Q	11,632,634株	26年3月期2Q	11,634,575株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策及び日銀の金融緩和を背景に、緩やかな回復基調が続いておりますが、消費者物価や原材料価格の上昇等の影響から、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

一方で、美容業界におきましては、来店客数の減少や客単価の下落等、依然、美容室にとって厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社におきましては創業精神である「美容業界の近代化」をベースに、独自のビジネスモデルである「旬報店システムを軸としたコンサルティング・セールス」と「トイレタリーの販売を中心とした店販戦略」を引き続き展開し、美容室の業績向上に向けた提案や経営に関する支援を行いました。

売上高につきましては、平成26年5月に発売した整髪料の新製品が好調であったことから前年同四半期を上回りました。

また、売上原価につきましては、増収に伴い増加いたしました。販売費及び一般管理費につきましても、本社施設の一部改修費用に加え、新製品の発売に伴う販売促進費の増加等により、前年同四半期を上回っております。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,527百万円（前年同四半期比7.2%増）、営業利益は187百万円（前年同四半期比3.1%増）、経常利益は189百万円（前年同四半期比3.4%増）、四半期純利益は124百万円（前年同四半期比8.8%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、以下のとおりであります。

#### ① トイレタリー

トイレタリー（シャンプー、トリートメント）は当社の主軸となる製品群であります。毛髪のダメージケアに対する消費者の関心の高まりから、一般市場品におきましても高付加価値なトイレタリー製品へのニーズが増加しております。

当社では、美容室の来店客に対する毛髪及びヘアケアのコンサルティング提案をベースに、主力の「コタ アイケア」を中心とした店販を継続して提案・推進することで着実に実績を伸ばし、お取引先美容室の業績向上と成長につなげることができました。

しかしながら、当第2四半期累計期間の売上高は1,480百万円（前年同四半期比1.4%減）、セグメント利益（売上総利益）は1,083百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。

#### ② 整髪料

ヘアスタイルの多様化に伴い、一般市場品との競合が激しいセグメントとなっております。

当社では、平成26年5月に発売した新製品「コタスタイリング ベース」を中心に、美容室でのコンサルティングを通じた店販の推進に注力いたしました。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は634百万円（前年同四半期比73.2%増）、セグメント利益（売上総利益）は458百万円（前年同四半期比66.4%増）となりました。

#### ③ カラー剤

白髪を染めるグレイカラーと若年層中心のファッションカラーを含め、一般市場品との競合が激しいセグメントとなっております。

当社では、主力の「グラフィカ」におきまして専用の販促ツールを活用し、拡販に注力してまいりました。

しかしながら、当第2四半期累計期間の売上高は188百万円（前年同四半期比18.6%減）、セグメント利益（売上総利益）は126百万円（前年同四半期比13.2%減）となりました。

#### ④ 育毛剤

一般市場品との競合が激しいセグメントとなっておりますが、美容室におきましては、頭皮ケアへの関心の高まりからヘッドスパメニューが推進されております。

当社では、主力の「コタセラ」シリーズを中心に、頭皮の洗浄や育毛効果のあるヘッドスパメニュー等の導入提案に注力いたしました。

しかしながら、当第2四半期累計期間の売上高は86百万円（前年同四半期比9.6%減）、セグメント利益（売上総利益）は68百万円（前年同四半期比8.9%減）となりました。

⑤ パーマ剤

ヘアスタイルのトレンドがパーマに回帰する傾向は見受けられず、パーマ市場は引き続き減少傾向にあると推測されます。

当社では、主力の「コタウェーブ リジカル」を中心に、美容室に対してパーマメニューの提案を積極的に行ってまいりました。

しかしながら、当第2四半期累計期間の売上高は61百万円（前年同四半期比18.2%減）、セグメント利益（売上総利益）は36百万円（前年同四半期比25.5%減）となりました。

⑥ その他

美容室で利用されるDMやチラシ等の販促物の販売、施術時に使用する美容小物品等の販売、美容室の店舗改装及び出店時に必要な美容器具類の販売、並びに美容室のアシスタントスタッフを対象とした美容技術を学ぶことができる講座である「コタアカデミー」の受講料等の収入を計上しております。

当第2四半期累計期間の売上高は75百万円（前年同四半期比12.3%減）、セグメント利益（売上総利益）は43百万円（前年同四半期比0.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(総資産)

当第2四半期会計期間の総資産は、前事業年度末から387百万円減少し、7,390百万円となりました。

主な要因としては、商品及び製品が202百万円増加し、受取手形及び売掛金が522百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間の負債は、前事業年度末から368百万円減少し、1,223百万円となりました。

主な要因としては、販売奨励引当金が101百万円増加し、未払金が300百万円、未払法人税等が190百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間の純資産は、前事業年度末から18百万円減少し、6,166百万円となりました。

主な要因としては、利益剰余金が16百万円減少したことによるものであります。なお、自己資本比率は、83.4%（前事業年度末79.5%）となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末より77百万円減少し、2,330百万円（前年同四半期比892百万円増）となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、167百万円（前年同四半期比35百万円増）となりました。

収入の主な要因としては、税引前四半期純利益189百万円及び売上債権の減少522百万円であり、支出の主な要因としては、たな卸資産の増加216百万円、法人税等の支払いによる支出286百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、31百万円（前年同四半期比382百万円減）となりました。

支出の主な要因としては、有形固定資産の取得による支出26百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、213百万円（前年同四半期比39百万円増）となりました。

支出の主な要因としては、配当金の支払いによる支出210百万円であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は営業戦略上、通期業績に占める上半期の構成比率は下半期に比べ小さいことから、当第2四半期累計期間の業績は当初予想を下回りましたが、その減少額は小さいものと判断しております。

第3四半期以降につきましては、美容業界の繁忙期と重なることに加え、11月から12月にかけて当社製品の販売コンクールである「コタ全国店販コンクール」の開催も予定しており、「コタ アイ ケア」を中心とした利益率の高いトイレタリーの需要増加が見込まれることから、平成26年5月9日に公表いたしました通期の業績予想に変更はございません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期累計期間の期首の前払年金費用が87,857千円及び利益剰余金が70,633千円増加し、退職給付引当金が21,415千円減少しております。また、当第2四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益はそれぞれ12,311千円減少しております。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	28,829	26,407
受取手形及び売掛金	1,205,436	683,069
有価証券	2,378,259	2,303,679
商品及び製品	470,805	673,641
仕掛品	8,115	3,322
原材料及び貯蔵品	158,720	177,506
その他	132,784	182,522
流動資産合計	4,382,952	4,050,148
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,378,821	1,333,394
土地	1,158,906	1,158,906
その他(純額)	431,421	374,143
有形固定資産合計	2,969,148	2,866,443
無形固定資産	62,869	52,046
投資その他の資産	362,488	421,626
固定資産合計	3,394,506	3,340,115
資産合計	7,777,458	7,390,264
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	92,483	115,398
未払金	381,960	81,049
未払法人税等	295,000	104,100
賞与引当金	176,738	162,194
役員賞与引当金	—	12,321
販売奨励引当金	42,895	144,484
その他	91,212	83,249
流動負債合計	1,080,289	702,797
固定負債		
退職給付引当金	21,415	—
役員退職慰労引当金	379,870	400,988
長期預り保証金	110,633	119,828
固定負債合計	511,918	520,816
負債合計	1,592,207	1,223,613
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	387,800	387,800
資本剰余金	330,801	330,801
利益剰余金	5,468,770	5,452,157
自己株式	△2,852	△4,995
株主資本合計	6,184,519	6,165,763
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	731	887
評価・換算差額等合計	731	887
純資産合計	6,185,251	6,166,650
負債純資産合計	7,777,458	7,390,264



## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	2,357,606	2,527,751
売上原価	675,224	710,803
売上総利益	1,682,381	1,816,948
販売費及び一般管理費	1,500,278	1,629,160
営業利益	182,103	187,787
営業外収益		
受取利息	733	855
受取配当金	1,691	1,625
投資有価証券売却益	1,285	—
受取賃貸料	3,031	3,352
その他	2,817	1,815
営業外収益合計	9,559	7,649
営業外費用		
たな卸資産廃棄損	4,662	3,474
その他	3,216	1,963
営業外費用合計	7,878	5,437
経常利益	183,784	189,999
税引前四半期純利益	183,784	189,999
法人税、住民税及び事業税	107,169	97,491
法人税等調整額	△37,593	△31,771
法人税等合計	69,575	65,719
四半期純利益	114,208	124,280

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	183,784	189,999
減価償却費	160,725	139,818
賞与引当金の増減額(△は減少)	△9,389	△14,544
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	11,297	12,321
退職給付引当金の増減額(△は減少)	7,304	—
前払年金費用の増減額(△は増加)	—	5,841
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	22,214	21,118
その他の引当金の増減額(△は減少)	100,057	101,589
受取利息及び受取配当金	△2,425	△2,481
投資有価証券売却損益(△は益)	△1,285	—
売上債権の増減額(△は増加)	440,768	522,615
たな卸資産の増減額(△は増加)	△200,951	△216,828
仕入債務の増減額(△は減少)	38,542	22,915
その他	△353,837	△330,534
小計	396,804	451,829
利息及び配当金の受取額	2,169	2,359
法人税等の支払額	△266,669	△286,396
営業活動によるキャッシュ・フロー	132,304	167,792
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△300,000	—
投資有価証券の売却による収入	13,342	—
有形固定資産の取得による支出	△118,778	△26,426
その他	△8,495	△5,284
投資活動によるキャッシュ・フロー	△413,930	△31,710
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△674	△2,142
配当金の支払額	△172,526	△210,940
財務活動によるキャッシュ・フロー	△173,201	△213,083
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△454,827	△77,001
現金及び現金同等物の期首残高	1,892,481	2,407,088
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,437,654	2,330,086

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	トイレットリー	整髪料	カラー剤	育毛剤	パーマ剤	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,502,312	366,522	231,403	95,838	75,264	2,271,342	86,263	2,357,606
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,502,312	366,522	231,403	95,838	75,264	2,271,342	86,263	2,357,606
セグメント利益	1,092,865	275,601	146,038	75,278	49,230	1,639,013	43,367	1,682,381

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、美容室で利用されるDMやチラシ等の販促物の販売、施術時に使用する美容小物品等の販売、美容室の店舗改装及び出店時に必要な美容器具類の販売等、並びに美容室のアシスタントスタッフを対象とした美容技術を学ぶことができる講座である「コタアカデミー」の受講料等の収入を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,639,013
「その他」の区分の利益	43,367
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△1,500,278
四半期損益計算書の営業利益	182,103

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

II 当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	トイレタリー	整髪料	カラー剤	育毛剤	パーマ剤	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,480,777	634,768	188,411	86,606	61,528	2,452,092	75,659	2,527,751
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,480,777	634,768	188,411	86,606	61,528	2,452,092	75,659	2,527,751
セグメント利益	1,083,029	458,673	126,768	68,543	36,697	1,773,711	43,236	1,816,948

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、美容室で利用されるDMやチラシ等の販促物の販売、施術時に使用する美容小物品等の販売、美容室の店舗改装及び出店時に必要な美容器具類の販売等、並びに美容室のアシスタントスタッフを対象とした美容技術を学ぶことができる講座である「コタアカデミー」の受講料等の収入を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	1,773,711
「その他」の区分の利益	43,236
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	△1,629,160
四半期損益計算書の営業利益	187,787

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、事業セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更しております。

当該変更により、各セグメント利益に与える影響は軽微であります。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得及び自己株式の公開買付け)

当社は、平成26年11月7日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項及び当社定款の規定に基づく自己株式の取得及びその具体的な取得方法として自己株式の公開買付けを行うことを決議いたしました。

1. 買付け等の目的

当社は、平成26年6月中旬に当社の第一位株主である有限会社英和商事より、その保有する当社普通株式の一部である700,000株(発行済株式総数に対する割合6.01%)を売却する意向がある旨の連絡を受けました。

当社は同社からの連絡を受けて、一時的にまとまった数量の株式が市場に放出されることによる当社普通株式の流動性及び市場価格に与える影響、並びに当社の財務状況等を総合的に鑑み、平成26年8月上旬に、当該株式を自己株式として取得することについての具体的な検討を開始いたしました。

同社の意向を踏まえて検討した結果、当社が当該株式を自己株式として取得することは、当社の1株当たり当期純利益(EPS)及び自己資本当期純利益率(ROE)などの資本効率の向上に寄与し、株主の皆様に対する一層の利益還元につながるものであること、当社の財務状況や配当方針に大きな影響を与えないこと等を総合的に勘案し、かかる自己株式の取得が当社の利益配分に関する基本方針に合致すると判断いたしました。

なお、自己株式の具体的な取得方法につきましては、株主間の平等性、取引の透明性の観点から十分に検討を重ねた結果、公開買付けの手法が適切であると判断いたしました。

2. 取締役会決議の内容

(1) 取得する株式の種類	普通株式
(2) 取得する株式の総数	770,100株(上限とする。)
(3) 取得価額の総額	890,235,600円(上限とする。)
(4) 取得する期間	平成26年11月10日から平成27年1月30日まで

3. 公開買付けの概要

(1) 買付け期間	平成26年11月10日から平成26年12月8日まで(20営業日)
(2) 買付け等の価格	1株につき金1,156円
(3) 買付け予定数	770,000株
(4) 公開買付け開始公告日	平成26年11月10日
(5) 決済の開始日	平成27年1月7日